

学生に読ませたい本

朴 孝淑

日本社会のしくみ
雇用・教育・福祉の歴史社会学
小熊英二

日本を支配する
社会の慣習

「この国のかたち」は
いかにして生まれたか
「日本の働き方」成立の歴史的経緯と
その足跡を問う

『日本社会のしくみ 雇用・教育・福祉の歴史社会学』

著者：小熊英二 講談社現代新書、2019年

本書は、「日本社会の仕組み」は、どんな経緯でできあがってきたのか、という問題を社会学者の視点で解明したものである。この問題を解明するために、高度経済成長期から現在に至るまでの日本型雇用の歴史を解説している。有益な情報も多く、本書を通じて日本社会の全体像を把握することができると思われる。特に、著者は、現代日本での生き方を「大企業型」「地元型」「残余型」の3つの類型に分けて説明している（第1章）。「大企業型」は、毎年、賃金が年功序列で上がっていく人たち、「地元型」は、地元にとどまっている人、「残余型」は、所得は比較的少ないものの、地域コミュニティを担い、持ち家や田んぼがあったり、人間関係が豊かだったりする。現代の都市部の非正規労働者などが、「残余型」の象徴として挙げられている点は興味深い。その他にも、日本の働き方と世界の働き方の比較（第2章）、日本型雇用の起源（第4章）、民主化と「社員の平等」（第6章）、雇用成長と「学歴」（第7章）、「社会の仕組み」と「定義」のあり方等、日本社会の全体像を把握するにあたって大いに参考になる内容になっている。日本社会の仕組みについて知りたい学生に読んでみてほしい。

—*—



『ハーバード白熱教室講義録＋東大特別授業（上・下）』

著者：マイケル・サンデル 早川書房、2012年

本書はハーバード大学の世界的な政治哲学者マイケル・サンデル教授の「政治哲学」の講義内容を収録したものである。合計12回の講義で構成されており、例えば、「もしもプレーキのきかない車を運転していて、5人か1人か一方を犠牲にするしかないとしたら、あなたはどちらを選ぶか」（第1回「殺人に正義はあるか」の内容）、「命に値段をつけられるのか」（第2回）、「私たちはどんな原理に従って、富や権力、機会を分配するべきか」（第8回）など、現代社会の難問をテーマに議論を展開している。哲学書は難しく堅苦しいイメージがあるが、ハーバード大学の学生たちとサンデル教授の議論を中心に進行するため、他の哲学書に比べて非常に読みやすい。哲学に少しでも興味のある学生に読んでみてほしい。本書を面白いと感じた学生には、同著者の「実力も運のうち 能力主義は正義か？」（早川書房、2021年）をも合わせて読んでみることをお勧めしたい。

（法学部准教授）



編集後記 後学期になり、24号館でも演習科目等に出席する学生さんたちを見かけるようになりました。特に、1階の玄関ホールに並べられた木の机の横は、学生さんたちが集う場所になっているようです。演習室が空くのを待っていたり、ゼミナールが終わった後、静かに議論の続きをしていたり。1人で座ってテキストを読み込んでいる学生さんの姿も見られます。こんな風に机を並べると、こんな風に学生さんたちが利用するのですね。17号館にはこのような空間がなかったので、とても新鮮な風景です。

前学期に法学研究所の主催で実施されたシンポジウム（代表 幸田雅治先生）を土台として、『エビデンスに基づいた政策決定（EBPM）－横浜市のIR推進から考える』が出版されることになりました。法学研究所のWebサイトに掲載中のシンポジウム配付資料（http://www.law.kanagawa-u.ac.jp/institute/pdf/symposium_20210702.pdf）とあわせてご覧ください。（NS）

法学研究所

所長	大庭 三枝	教授
常任委員	柴田 直子	教授
	大川 千寿	教授
	東郷 佳朗	准教授

地方自治センター

センター長	安達 和志	教授
運営委員	出口 裕明	教授
	三浦 大介	教授
	嘉藤 亮	教授
	諸坂 佐利	准教授

国際人権センター

センター長	近江 美保	教授
運営委員	井上 匡子	教授
	岩田 太	教授
	大庭 三枝	教授
	柴田 直子	教授
	石井梨紗子	准教授

神奈川大学法学研究所 ニュースレター 2021.11 / No.27

発行者：神奈川大学法学研究所 大庭 三枝
〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1 TEL 045-481-5661（代表） FAX 045-413-0815

印刷所（株）江森印刷所
〒221-0014 横浜市神奈川区入江1-34-25 TEL 045-421-2297